

平成24年度第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成24年11月30日（金）14:00～16:00
場所 富士見市教育委員会 会議室
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	横田	岩田	植松	岡本	荻島
○	欠	○	○	欠	○
桐生	清水	田中	前田	森本	山田
○	欠	欠	○	欠	○

○事務局

【地域文化振興課】市川課長、原山主事

【生涯学習課】金田課長、佐藤副課長、榎本主事補

1. 自己紹介 事務局
開会あいさつ 小塚委員長

2. 議事 議事進行 小塚委員長

(1) 資料確認

事務局より、配布資料の確認を行った。

委員長) 10月に会議を開くのは、協議した内容を予算に組み込むためという意義があった。今回、その意義の変更や目標の見通しが必要であると事前の打合せにおいて提案したが、それが明確になったように感じる。庁内の推進委員会とのかかわりはどうなっているのか。

事務局) 例年この時期に会議は行っていないが、報告等はしていくつもりでいる。

(2) 報告事項

①富士見市文化芸術振興基本計画検討委員会の委員推薦について

事務局より、委員推薦について小塚委員長との協議した結果、小塚委員長が代表として富士見市文化芸術振興基本計画検討委員となったことを報告した。

委員長) なお本日欠席の横田副委員長にも、報告を済ませている。

委員) 了解した。

(3) 協議事項

＜計画の進行管理に関連して＞

① 生涯学習の事業内容調査について

事務局) このたびの調査については、前回の会議では情報の整理の仕方についてや、指定管理者の事業についても情報収集が必要であるというご意見を頂いた。それをふまえて、市内で開催される生涯学習の情報をまとめたガイドブックを作成するということはどうか。

委員) それは、市内で行われるすべての事業について網羅するものか。

事務局) そのように考えている。朝霞市等、他の自治体で作成されている冊子についても、年度当初に実施が決定した事業についてまとめたものが多い。4月から作業を始め、発行は5月頃になると考える。

委員) 大きさやページ数等は決まっているのか。概略に留めるのではなく詳細な内容までわかるものをつくったほうがよいと思う。

事務局) 早くから決まっているものについてはより具体的に掲載したいと考えているが、すべての事業に対してそうすることは難しいと考えている。なるべく早めに決めてもらえるよう各部署にお願いしたいと思う。

委員) 毎年変えるのではなく、市民便利帳のように一度もらったら長年使えるものにしてはどうか。(例：日付は記載せず、内容とおおまかな時期だけ記載するなど)

事務局) 個人に配布するというよりは各公共施設にて閲覧するものと考えているため、基本的には毎年更新するものとしたい。

委員) 富士見市特有の事業(例えばスポーツ)が一目でわかるような工夫をして欲しい。

事務局) 了解した。

委員) NPOとの関わりももっとPRしていくべきではないか。

事務局) 指定管理者やNPO等も含めていくつもりでいる。また、目次(案)の部分で「2. ボランティア活動」としている部分は「2. 講師等派遣情報」と変える。

委員) 細かな情報はPC上で網羅し、印刷して発行するものでは概略を掴んでもらうという理解でよいか。

事務局) 冊子に掲載可能な情報量には限りがあるため、必要に応じてホームページ等で補足したいと考えている。印刷物とホームページ、双方を組み合わせた情報発信をしたい。

委員) ガイドブックとHPという2本立ての状態は少し無駄ではないか。

事務局) 確かに紙媒体のものを発行していない市町村もあるが、ホームペー

ジを強化していくことは必要であると考えている。

委員) 利用者の立場で捉えると、年間すべての事業を網羅し、一覧させるのは良いと思う。

委員) 自宅でインターネットが使えない方についても、たとえば最寄りの公共施設で調べられるなどの方法で情報伝達できるので、多角的なサポートは良いと思う。

委員) 部数はどれくらいにするのか。

事務局) 自前印刷で200~300程度と考えている。公共施設等での閲覧用や社会教育活動に関わっている代表者の方にまずは配布できたらと思う。ららぽーとや駅などからも情報を発信する方法を次回以降議論していただけたらと思う。(例) 狭山市のタッチパネルモニター

委員) 活動拠点の整備ができるとうい。

委員) 次回、ガイドブックの試作品を作ってきてほしい。

事務局) 了解した。

委員) 情報に関するガイドブックを作ったあとは、どのような目標を立てれば良いだろうか。

事務局) 事業改善について検討していただき、それをまとめの中で報告したいと考えている。

② 事業改善の検討について

委員) 針ヶ谷やみずほ台などのコミュニティセンターは入っているのか。

事務局) 生涯学習施設としてではなく集会室的な施設であるが、関連する事業は行っているので情報を得ることは可能。こうした指定管理者の部分に関してはこちらで情報を得ていく必要があると考えている。

委員) より多彩で質の高い事業が展開されることを望む。たとえば、指定管理者が市民と協働で企画・運営していく事業があっても良いと思う。

事務局) 指定管理は契約行為で運営しているため、仕様書の中に記載することが必要となる。そのため、仕様書に書いていないことをするのは難しい。

委員) 特に図書館については、情報の発信基地としての役割を期待したい。

事務局) 無料利用できる施設と有料利用になる施設でも事情は違う。図書館は無料の施設であるため、たとえばキラリふじみのような事業展開を行うことは難しい。ただ、指定管理のあり方にも幅があると思われるので、今後協議する余地はある。

委員) 自分で学んだ知識などを活かしたいという欲求もあると思う。そのよ

うな場づくりがあると望ましい。

委員) 施設のことで印刷機の評判が施設ごとに異なっている。施設ごとに使用手続きの方法に違いがあるようなので統一してはどうか。

事務局) 基本的な部分は印刷機利用要綱上で統一しているが、施設ごとに利用のされ方が異なるため、手続きの方法等は各施設にまかせているのが現状である。

委員) ガイドブックのほかに事業改善について何か考えはあるのか。

事務局) 今出ている課題点の整理を通して考えていく。学ぶ機会や発表の場作り、方法の見直しなども考えていきたいと思っている。

委員) 調査結果を見て富士見市が多様な事業を持っていることに驚いた。それを市民に知ってもらったり評価してもらったりすることは必要だと思うので、ガイドブックを作成することはよいと思う。ただし、多くの事業を展開するのもよいが、富士見市の目玉となるものを何か定め、集中して力を入れてはどうか。たとえば「子育てをしている人」など、ターゲットを絞って事業展開することも良いと思う。

事務局) 当市ではかねてから子育てに対する支援制度の充実を図っているため、それと連携した事業などを展開できる可能性がある。

委員) 富士見市の事業においては、個人的には職員の方の努力を感じている。職員数の減少に伴って職員一人あたりの負担が大きくなる中で、効率化・質の向上を行うために、見直していく必要はあると思う。

委員) 施設情報など、便利帳との整合性が必要ではないか。例えば、便利帳では安心安全・子育て・元気な交流などを富士見市が誇れる点としている。生涯学習情報をまとめていく上でもこうした視点は必要ではないか。また、サークル活動の情報はどうのように提供されているのか。

事務局) サークル側が情報発信を許可した場合のみ、施設ごとに情報閲覧用を設置することとあわせてホームページ等で公開している。

委員) 望ましいサークルのあり方について、市はどのような方針を示しているのか。

事務局) 登録をしなければ公共施設を使用できない。登録の時点では、責任者と緊急連絡先を必ず書くことや、講師と代表者を別の方にしていただくことをお願いしている。サークルという言葉のとおり、参加者同士の対等な関係性が基本だと考えているため、「塾」のような状況になることを防いでいる。また、極力多くの方にご参加いただけるような、開かれた集まりになることもお願いしている。ただし、基本的にそうした活動は主体的なものであり、行政が介入するのは望ましくないと考える。

委員) それではすべての活動団体の情報を把握できないのではないか。全体にオープンにしてもらうべきではないか。

事務局) 極力多くの方にご参加いただけるような、開かれた集まりになることをお願いしている。ただし、基本的にそうした活動は主体的なものであり、行政が介入するのは望ましくないと考える。

※次回以降も引き続きご意見をいただく。

③パブリックコメントの取り扱いについて

計画のパブリックコメントについて寄せられた意見と対応について、事務局から説明を行った。

事務局) 次回、公民館活動に関連して、教育振興基本計画の資料を配布できたらと考えている。

<出前講座について>

来年度のメニュー作りに向けてご意見をいただいた。

事務局) 年度末には、出前講座のメニューの見直しが行われる。それにさきかけて、委員の皆様からご意見をいただきたい。

委員) 生きがい作りという観点から、「就労」に関するテーマの講座を設けてはどうか。働きたい、力を活かしたい高齢者は多いが、どんな仕組みがあるか解らない方も多いのでは。社協や町会を經由して、積極的にPRするなど、宣伝の工夫が必要だと感じる。

委員) これまでの見直しは、講師の派遣元である担当課への照会という形で行われてきたと聞いている。だが、それだけでは受け手の意見が反映されない。公民館などで活動する団体から、ニーズを吸い上げてはどうか。

事務局) 出前講座については、人材バンクとの連携などを通じ、より活用を促進したいと考えている。今回いただいた意見をふまえ、見直しの方法も含め検討する。

委員) 出前講座の情報と人材バンクの情報を一緒に広報する予定とのことなので、趣味に関連する部分については人材バンクがカバーしていくことができたらと考えている。また、シルバー人材センターに登録している方にも、同時に人材バンクへ登録していただけるような体制にできたらと考えている。高齢者支援事業の一環として考えていただけた

らと思う。

(3) その他

次回の会議開催時期について、平成25年3月と決まった。

3. 閉会あいさつ 小塚委員長
事務局